

そろそろ繁殖期ですね 06年03月23日(木)

ニッポンバラタナゴの雄とモツゴの雌です。

ニッポンバラタナゴの雄はもう婚姻色が出てきてますね。

モツゴの雌もお腹が孕んでいますよ。

もうそろそろ産卵期です。



3月定期調査RE-1 06年03月19日(日)



3 月定期調査 06 年 03 月 19 日(日)



モンドリとタモ網 06年03月19日(日)

モンドリを浸けてニッポンバラタナゴを採集し、
雌の妊卵率を調べる予定でしたが、
ほとんど入らなかったようです。
タモ網でヨシノボリを採集し、
ドブガイの幼生数をカウントします。
ドブガイの産卵ピークはそろそろ過ぎたようです。
次はニッポンバラタナゴとヨシノボリ、モツゴの産卵期です。



溶存酸素量(DO)とドブガイの測定 06年03月19日(日)

溶存酸素量(DO)を調べています。DOは一日の朝夕でかなり変動があります。昨年生まれのドブガイの殻長・殻高・殻幅をノギスで測定しているところです。2月～3月にはほとんど成長していないようですね。



高安みどりの少年団 森林整備と炭焼き 06年03月05日(日)

今年度最後の森林整備が実施されました。

詳しくは、高安みどりの少年団のページをご覧ください。



2月定期調査(その2) 06年02月19日(日)

今日は2つのグループに分かれて活動を実施しました。

保護池 RE-1 では、底樋改修工事後の保護池の状態やニッポンバラタナゴやドブガイの生息状況などを調べました。一方、新保護池(RE-2)の方では、保護池周辺の環境整備と、池の給水口や排水口の状態などを調べ、今後どのように改修していけばよいか話し合ってみました。



2月定期調査(その1) 06年02月19日(日)

保護池改修工事後、初めての定期調査です。

今の時期、最も気になるのはドブガイの産卵です。

ドブガイが妊卵しているか、ヨシノボリにドブガイの幼生が何個体寄生しているかです。この時期の寄生率とドブガイの繁殖率にはあまり相関がないという過去の結果が出ているのですが、その原因は、ドブガイの初期成長過程が関係しているようです。すなわち、ヨシノボリに寄生しているドブガイの幼生(0.2mm)から直接池で発見される、5-7mmまでの初期成長過程です。

この時期にドブガイの幼生は、何を食べて大きくなっているのでしょうかね。いまが実験する時期ですよ。

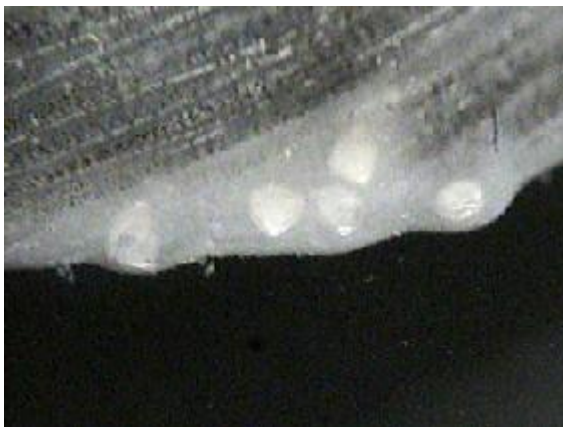


ヨシノボリに寄生するドブガイの幼生 06年02月13日(月)

ヨシノボリに寄生するドブガイの幼生(グロキディウム)です。

今年の1月15日にはヨシノボリに平均 13 ± 5 個体 ($n=5$) ずつグロキディウムが付いていましたが、昨日の2月12日には平均 19 ± 2.4 個体 ($n=5$) 付着していました。ヨシノボリの胸ひれや腹ひれ尾ひれなどに付いているのが見えますか。少し拡大してみました。

ドブガイの幼生は、このようにヨシノボリなどの底棲魚のひれやえらの中に潜り込み、2週間ほどヨシノボリの体液をもらって大きくなり、それから池の底へ脱落して成長しはめるのです。魚に寄生できなかったドブガイの幼生は、死んでしまいます。池の底の落ちた幼生の大きさは約0.2mmぐらいで、6月ごろには5mm~7mmまで成長するのですが、この過程で幼生が何を食べて成長しているのかさっぱり分からないんです。ここが分かればドブガイの人工養殖ができるのですが、これは本当に難問ですよ。皆さんチャレンジしてください。うまく行ったら教えてくださいね。



保護池RE-1 06年02月12日(日)

水も溜まり落ち着いた保護池になりました。

少しヨシノボリを採集して、ドブガイの幼生(グロキディウム)がどれぐらい付いているか調べてみました。肉眼で見る範囲ですが、どうも多い個体には20ほどのグロキディウムが寄生しているようです。ドブガイの繁殖最盛期ですね。明日、実験室で詳しく調べて見ます。



保護池改修工事の竣工式 06年02月05日(日)

1998年に本会が設立してからの長年の夢だった保護池の底樋改修工事を終え、多くの会員が参加する中で無事、竣工式を迎えることができました。理事代表加納、副理事葭仲、理事竹本(2)、監事岩本(3)顧問富田(3)、事務局新子、片山、会員上林、藤分、杉村、高野(5)、高橋、西辻、太田、辰巳、前田(2)、坂田、辻井、長尾、橋本、小林、竹林、加藤の33名が参加しました。皆さんご苦労様でした。



新保護池環境整備 06年01月29日(日)

新しい保護池(郡川A池 RE-2)の本格的な自然再生活動が開始されました。生物調査をしたところ、アメリカザリガニばかりが棲息しているだけです。池には光があまり差し込まないので、植物プランクトンがほとんど繁殖していない状態です。当然、動物プランクトンも少なく、食物連鎖がほとんど成立していない状態です。こんな状態でもザリガニだけはたくさん繁殖しているのが不思議ですね。太陽の光が入らないと光合成ができないので、池の底の溜まった落ち葉などの有機物は、還元状態で分解されて行きます。そして、メタンや硫化水素が発生してくるのです。

したがって、第一の作業は、池に光を入れることです。次に長年池の底に溜まったヘドロをかい出す作業ですね。保護池の堤に本来生やしてはいけない高木が大きくなっているため、堤を守るためにも、伐採しなければなりません。堤に生えた木の根の成長によって、堤に細い水路ができてしまい、ため池の水が漏れることになってしまうのです。いまこの池は、水漏れがあるようなんですが、水路から常に給水している状態なので、どこから漏れているのかが分かりません。かなり底から漏れているようでしたら厄介ですね。今日は堤に生えている、クヌギとサクラの木を伐採しました。また池を覆っていたカシの木も光が入るように枝打ちをしておきました。

30-40年放置され、池の底に溜まったヘドロをかい出すにはかなり人手と時間がある作業になりますが、ヘドロをかき出せばため池がよみがえるので、やりがいのある作業だと思います。

次回はこの作業日は、2月19日(日)です。

会員の皆さん、ボランティアよろしくお願いします。



保護池全体像 06年01月21日(土)

保護池の全体像が見えてきました。



底樋排水と池上段石積み 06年01月21日(土)

底樋からの排水と池上段石積み工事を行っています。



底樋 06年01月19日(木)

もう底樋が設置されました。

すごいスピードで改修工事が進んでいます。



二段目の池底 01月18日(水)

池の構造は二段底にします。内側の深みが約5m×4mで深さは水面から約130cm～120cmになる予定です。まずは、松材の底板をはめ込み、その上に石を積み上げていきます。この内底の一番深いところに底樋の床石を設置します。池のサイズは約12m×12mでの外側の底は最大水深が60cm～70cmになるの山側は緩やかな傾斜になり、ドブガイの繁殖場になるはずですが。



池の底板と底石積み 06年01月17日(火)

底板の上へ石積を行っていることです。人力では到底出来ない作業ですね。干しあげてあった酸化土と還元泥との違いがよくわかります。酸化土は奥の茶色い土です。鉄分が酸化してやや茶色身帯びてきます。しかし、手前の泥は還元泥で、硫化水素のくさい臭いが残っています。池の底にはどうしてもこのような還元泥が堆積してきます。だから年に1度の池干しが必要なんですね。



底板と底石の搬入 06年01月17日(火)

石の搬入は、クレーンと石運搬機そしてユンボとリレーして行きます。見事な技術ですね。



底樋改修のための水抜き 06年01月09日(月)

保護池の底樋改修のための完全な池干しを行っています。

まだ、水が周辺から湧き出てきます。

保護池の周囲を石垣にし、底はすり鉢型の2段構造にしていきます。樋は底樋と上樋の連結構造でさらにオーバーフロー用のパイプを取り付ける予定です。石垣の底は松材の板を底に敷き、底樋の床は石材を使用することになりました。

本工事は1月16日から開始する予定です。

どのような保護池になるか皆さん楽しみにしておいてください。詳しい工事予定が決まれば皆さんに連絡します。

人手がいる日程をできるだけ早く連絡します。

また、今後の工事の進行状況を日記で公開します。



池干し(その2) 06年01月08日(日)

池の氷の厚さが8mmです。石を投げても割れません。
ドブガイも氷の中で固まっているのがあります。
困ったものです。



池干し(その1) 01月08日(日)
小林君ご苦労様でした。

